

第2学年 国語科学習指導案

児童 2年2組 男子13名 女子11名
指導者 小野寺 育子

1 単元名 お話の人ぶつになりきって、音読げきをしよう

2 学習材名

中心学習材 「お手紙」(光村図書2年下)

補助学習材 「ふたりはともだち」 「ふたりはいっしょ」

「ふたりはいつも」 「ふたりはきょうも」(文化出版局)

3 単元を貫く言語活動とその特徴

場面の様子について想像を広げ、音読劇をすること

本単元を貫く言語活動として「場面の様子について想像を広げ、音読劇をすること」を位置付けた。音読劇の方法として、声と簡単な体の動きとでお話を表すことを設定する。

音読劇をするためには、会話文や地の文を役割分担し、場面の様子が伝わるように音読を工夫したり、簡単に動作化したりする必要がある。そのためには、登場人物の行動に着目して読み取り、登場人物に寄り添いながら音読したり体を動かしたりすることが欠かせない。

このことから、本言語活動は「場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと」(C読むことウ)の実現に結び付くものと考えた。

4 単元について

(1) 児童について

児童は、「ふきのとう」で「役に分かれて工夫して音読すること」の言語活動を通して、叙述を根拠に示して、理由付けながら読み方を考え、想像したことを自分の音読表現に生かすことを学んだ。また、「スイミー」で「好きな場面の感想を書くこと」の言語活動を通して、登場人物の行動や言ったことに着目して、場面を想像して読むとともに、好きな場面の大事な言葉を書き抜き、感想を書くことを学んだ。これらの学習を通して、登場人物の行動に着目して場面の様子を想像しながら読んだり、場面の様子が表れるように音読したりする力が身に付いてきている。

しかし、人物の行動と行動とのつながりを考えて様子をより豊かに想像し、場面の様子がよく表れるように工夫して音読したりすることについては、まだ十分とはいえない。人物の行動を物語全体の中でとらえ、そこから想像した気もちや様子と音読の工夫とがどのようにつながっているかを具体的に指導していく必要がある。

(2) 指導について

中心学習材「お手紙」は、友達の不幸せをいっしょに悲しみ、幸せを共に喜ぶかえるくんとがまくんの心の触れ合いを通して、二人の友情が伝わってくる作品である。

補助学習材は、「お手紙」が収録されている「ふたりは～」シリーズである。短気で少しわがま

まなところがあるけれど憎めないがまくんと、がまくんに比べて少し大人っぽくとても優しいかえらくんとの関係が描かれている。登場人物が少なく会話を中心として物語が展開していくため、人物の心情やその変化が理解しやすい。また、会話の際の二人の位置、距離、しぐさ、顔の向きを考えることで、二人の心情と心の通い合いを豊かに想像することができる学習材である。

単元を通して、次の三つを大切にしていきたい。

一つ目は、「単元のめあてを知り、学習の見通しをもつこと」である。音読劇をイメージしやすい

ようにモデルVTRを視聴させ、お話の人物になりきるのは面白そうだという気持ちをもたせたい。また、なりきるためには、物語の設定や登場人物の行動や様子を理解することが必要であることを押さえ、1年生に披露する音読劇発表会に向けた学習の流れをつかませたい。

二つ目は、「並行読書の話で、音読劇発表会を行うこと」である。シリーズを通して描かれる登場

人物の行動や、ストーリーのつながりに気付くことによって、解釈の手掛かりが多く得られるため、一つの作品だけよりも場面の様子について想像を広げて読むことができると考える。音読劇を行ったり鑑賞したりすることで、「ふたりはシリーズ」の世界観をより楽しませたい。

三つ目は、児童のつまずきが予想される「場面の様子を読み取ること」である。人物の行動を動作化させたり、その行動のもとになっている気持ちを物語全体の中で考えさせたりすることにより、人物の様子や声の調子を想像させたい。

本時は、音読と音読劇とを対比させることで、人物になりきって演じる音読劇の特徴をつかませたい。また、「人物になりきる」ためには人物の行動や気持ちを読み取ることが大事であり、それを表すための音読や動きを自分たちで工夫していくという見通しをもたせたい。

5 単元の指導目標

○場面の様子が表れるように工夫して音読劇を行い、物語の世界を楽しもうとしている。

(関心・意欲・態度)

◎登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むことができる。

(読むことウ)

○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。

(読むことア)

○主語と述語の関係を理解して文章を読むことができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(カ))

6 単元の評価規準

	国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語文化についての 知識・理解・技能
おおむね満足 できる状況	音読劇の楽しさに 気付いたり、自分の 思いを表現したりし ようとしている。	◎登場人物の行動に気を付けて読 み、場面の様子を想像している。 ○場面の様子が表れるように音読 している。	文の中における主 語と述語との関係を 理解している。

7 単元の学習計画及び評価計画 (読むこと 13時間)

段階	時間	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
見通す	1	1 単元のめあて, 言語活動をつかみ, 学習の見通しをもつ。	○音読劇の要素を把握させる。 ○「ふたりはシリーズ」の話を音読劇にして, 1年生に発表するという活動のイメージをもたせる。	㊦—音読劇をすることに関心をもつ。(発言, シート) ㊦—発表会へ向けての意欲を高めている。(発言, シート)
	2	2 学習計画を立てる。	○音読劇をする話を選ばせる。	
深め	3・4	3 「お手紙」を読み, 物語のあらすじをつかむ。(㊡～㊣場面)	○物語の設定, 構成をつかませる。 ○自分の好きな場面をどのように音読劇に表したいか, 初発の感想として書かせる。 ○主語と述語を理解させ, 誰の会話文かとらえさせる。 ○教科書に音読劇の工夫を書き込んだものを台本として扱うことを確認する。	㊦—音読劇の楽しさを感じている。(発言, 音読劇, シート) ㊦—物語のあらすじをとらえている。(発言, ノート, シート)
	5	4 ㊡と㊣の挿絵を対比し, ㊡の場面の様子を想像し, 音読劇をする。	○場面を対比することで, 登場人物の様子の変化に気付かせる。 ○行動や会話文に着目して音読劇をすることで, 場面の様子を想像させる。	㊦—場面の様子について想像を広げながら読んでいる。(発言, 台本, シート)
	6	5 ㊢の場面の様子を想像し, 音読劇をする。		㊦—場面の様子が表れるように音読している。(発言, 音読劇)
	7	6 ㊢の前半場面の様子を想像し, 音読劇をする。		
	8	7 ㊢の後半と㊣の場面の様子を想像し, 音読劇をする。		
	9	8 ㊣の場面の様子を想像したり, 自分の好きな場面の音読劇をしたりする。	○「お手紙」の学習を振り返り, 音読劇発表会に向けての課題をもたせる。	㊦—主語と述語の関係を理解している。(台本)
	広げる	10	9 自分の選んだ話について, 音読劇の仕方を考える。	○学んだことを生かしながら, 登場人物の気持ちや読み方の工夫を考え, 台本に書き込ませる。
11		10 音読劇の練習をする。	○台本をもとに友達とアドバイスし合いながら音読劇を工夫させる。	

12	11 音読劇発表会に向けて音読劇を仕上げる。	○ビデオに撮り、客観的に見ることで、修正を図らせる。	 一場面の様子が表れるように音読している。 (発言, 音読劇)
	※昼休み時間に音読劇発表会を行う。		
13	12 単元の振り返りをする。	○音読劇発表会のビデオ観賞をしながら活動を振り返り, 本単元で身に付いた力を自覚させる。	

8 本時の学習(1/13)

(1) 目標 単元のめあてと言語活動をつかみ, 学習の見通しをもつことができる。

(2) 展開

段階	学習活動	学習内容 (◎主発問)	指導と評価のための工夫
導入 5	1 並行読書をして いる「ふたりはシリーズ」について簡単な感想を話す。 2 本時の学習課題を確認する。	○「ふたりはシリーズ」の登場人物ががまくんとかえるくんであることを確認し, 気に入ったお話の感想を話すこと ・二人は仲のよい友達 ・二人のすることが愉快だ	・かえるくんとがまくんの挿し絵を提示して読んだ本を思い出させ, これからの学習に興味関心をもたせる。
これからどんなことを学習するか、見通しをもとう。			
展開	3 音読劇の特徴を知る。 (1) 「ふたりはシリーズ」の中のお話の音読を聞く。 (2) 教師が演じた音読劇(VTR)を見る。 (3) 音読劇と音読の違いを学習シートに書く。 (4) 音読劇と音読の違いを全体で交流する。	○音読の既習のポイントを確認すること ○次の視点で音読劇を見ること ・音読劇と音読との違い ◎音読劇は, 音読と比べてどんなところが違いますか。 ○音読劇が音読と比べて違うところを学習シートに書き自分の考えをもつこと ○音読劇と音読の違いを全体で交流し, 自分の考えを深めること ○音読劇の特徴を知ること ・役に分かれて読む ・大きな声で読んだり, 小さな声で読んだりする	・人物の様子が分かりやすいお話を音読劇のVTRと比較しやすいように, 抑揚を抑えて音読する。 ・音読劇を見せることによって, 音読にはない音読劇の特徴に気付かせる。 ・違いに気付けない子には, 音読劇には「声」以外の表現もあったことを観点に音読と音読劇の違いに気付けるように支援する。 ・自分の考えの変容が分かるように, 書き足しや書き直しは色ペンを使わせる。

30	<p>(5) 音読劇の台本を見る。</p> <p>4 学習の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・暗い声で読んだり明るい声で読んだりする ・速く読んだりゆっくり読んだりする ・人物になりきって読む <p>○音読劇が台本をもとに作られていることを知ること</p> <p>◎台本には、どんなことを想像して書き込んだらいいでしょう。</p> <p>○台本への書き込みは、人物の気もちや様子を想像したことがもとになっており、人物になりきるための工夫であることを知ること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あせった気もちで (だんだん大きく) ・ふしぎそうに (上げる) ・いじけたように (くらい声で) ・なぐさめるように (ていねいに) ・はげますように (明るい声で) など <p>○「ふたりはシリーズ」から話を選び、お話の人物になりきって音読劇をし1年生に見せるという目的をもつこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「深める」「広げる」段階で作る台本の手本となるようなモデルを提示し、自分にもできそうだというイメージをもたせる。
終末10	<p>5 本時の学習を振り返る。</p> <p>6 次時の学習を確認する。</p>	<p>○学習シートを使って自己評価をすること</p> <p>○次時は音読劇発表に向けた学習計画を立てること</p>	<p><評価規準></p> <p>音読劇をするに関心をもっている。 (発言、シート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「音読劇と音読の違いが分かったか」「学習して思ったこと」という視点で、自己評価させる。

(3) 板書計画

<p>お話の人ぶつになりきって、音読げきをしよう。</p>	<p>人ぶつの気もち 人ぶつのようす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふしぎそうに (上げる) ・いじけたように (くらい声で) ・なぐさめるように (ていねいに) ・はげますように (明るい声で) <p>あせった気もち (だんだん大きく)</p> <p>【だい本】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○はやく読んだり、ゆっくり読んだりする ○人ぶつになりきって読む ○くらしい声で読んだり、明るい声で読んだりする ○はやく読んだり、ゆっくり読んだりする ○大きな声で読んだり、小さな声で読んだりする 	<p>これからどんなことを学しゆうするか、見通しをもとう。</p> <p>絵かえるくんと 絵がまくん</p>
-------------------------------	---	--